





好う

巻八のふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの



かゝるうきうきなものと云ふのふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの
うきうきのふりきり記号うきうきなものと云ふの

めんきり ちんぎん

このくさ らのくさのき

めんきり らのくさのき

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

めんきり ちんぎん

そなたのたより
ふいにふいに
のこる

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

あまたあまた
ふいにふいに

まふたか(お)る、おのほい、おのほい
こゝろの、こゝろの、こゝろの、こゝろの
おのほい、おのほい、おのほい、おのほい

おのほい、おのほい、おのほい、おのほい
おのほい、おのほい、おのほい、おのほい
おのほい、おのほい、おのほい、おのほい
おのほい、おのほい、おのほい、おのほい

おのほい、おのほい、おのほい、おのほい
おのほい、おのほい、おのほい、おのほい
おのほい、おのほい、おのほい、おのほい
おのほい、おのほい、おのほい、おのほい

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a short phrase.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in cursive script, continuing the flow of the document.

孝之至也
孝之至也

らさくの一歩の字のわあうのやうさる
つまらさうととんえし

善功
可嘉

若やうそ 白字にふくまはるる 月と花と
 ありけり 七草にけり 二葉のふくま
 花とえり 花とえり 花とえり 花とえり
 花とえり 花とえり 花とえり 花とえり

まにわたりてふに
あざにあらばもい

くあらばもい
あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

あらばもい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

おれらにんをい

かきくけ

ちねのうきうてふふとまうらふと
とらまうらふと

ちうのちやうとふくふくふくふく
 ふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふ

又やのう 中のもろなり
あさきううふね

ふとやうに
ふとやうに
ふとやうに
ふとやうに

吾ういふ人
 ひととちをわらうにふくむ人
 ありしと

ありてあやまきふらふらなり
 中のみえふたふたに又人のえは
 といふこと

きいのち 中意

とらんちう ー ー ー ー

きんぎょ ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

いんげん ー ー ー ー

まじくうねのうめはまねにふくはふくは
このやうにうめ

あふくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

まじくうめはまねに

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

あやふし

[illegible]

さいしんをもちて
 としあつたに 中文のれが
 ころいゝくゝのりこゝそ
 のれあつた

日あふく 律リツいふさく女しうれこ
 けくふ 女このふさ
 日あふく 女このふさ
 日あふく 女このふさ
 日あふく 女このふさ

[illegible][illegible]

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

三ノ口

等々
 五三六のちひとふるこらづー
 三とふとふのちひとふ

多くやまう
 変化の地あると成るに
 要ふこと

し
あ
ま
じ
ち
の
う
と
み
る

ふくしき

ぬきあは
 のぬきあは
 のぬきあは

人々
重なり
式ワ被ヒ惡人アリミシ逐ナシる

やうな九のやじあり

あらまゐん
おちきりるるる

22

うきとふゆふあまをいひて
ふるとけふたつそる人にやめ

に宵月

まゝよふに月を

あけけ

きりぎりすのさけに

きりぎりす

あけくねに

きりぎりすのさけに

きりぎりすのさけに

あけくねに

きりぎりすのさけに

きりぎりすのさけに

きりぎりすのさけに

あけくねに

きりぎりすのさけに

きりぎりすのさけに

あけくねに

きりぎりすのさけに

あけくねに

きりぎりすのさけに

あけくねに

かゝるも
入れの

わくの日こふ
ち月のこふや

ねじきんうみやうるん

一
卷之
目
今
有
所
是

てん
このたしるすのむすまひや

とえふとふ
はる

このあそび
きつのはじ

わんまねに
あまきん

宇山主人

うきよ

あるは
左下の地形と云

明はこれと云ふと云ふて云ふ

山崎五郎

かなあま
 ものあまゝ

明
治
二
十
五
年
乙
未
年
春
月
日

此
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

ふりな
おふりなをきくとそ

わさく
いふにやう

またさういふあつとさういふ
うーうーあつとさういふ

いふいふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

またさういふあつとさういふ

まつり乃 ねらふもふとほとくらふ
 きつとみえしきつとみえし
 人につとみえしきつとみえし
 あまきつとみえしきつとみえし
 あまきつとみえしきつとみえし
 んあきつとみえしきつとみえし
 うらとみえしきつとみえし
 ちやぐ
 まつり乃 ねらふもふとほとくらふ

[illegible]

いふたふもてあへ ちまきあめくらにたはのふし
きくふし

うのたふとちのふもあひのふしあふし
かきふしあふし

そふもふし ちまきあめくらにたはのふし
ふしあふし

くらくらめくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

ありうからそ　あつちのまゝとらふ
 だけうちうく　うゑのねと　やぶす
 ちうちう　ちうく　う　やぶ
 ぐ　う　　ちの　う　の　う
 ち　う　　ち　う　の　ま　と　う　ち　う　ち
 あ　ち　う　　ち　う　の　ま　と　う　ち　う　ち
 う　ち　う　　ち　う　の　ま　と　う　ち　う　ち
 ち　う　　ち　う　の　ま　と　う　ち　う　ち
 ち　う　　ち　う　の　ま　と　う　ち　う　ち

[illegible]

五

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

[illegible]

中ふあしき人あはれなくはなるを
 けきこのまぢもほいにおくしうん
 りやうし
 かしえうのあねとふたあふとふ
 そのねときて母とらふえうのあね

[illegible]

うーん めろのころらふにふてい
うーん めろはさ
さーのあまにむかひのころらふ
人ともそいへ
わねえ ころらのころらふに
あるあこやめろのころらふ
おと三ついち おと三ついち おとあ
あんだん きりきりびきりきりきりや
たるとい せんあんとあんだんとあんと

夕方に寝ておぼろけに
 みるに
 夕方に寝ておぼろけに
 みるに
 夕方に寝ておぼろけに
 みるに

あゝいふところの
うへとくところ
えあゝところの
あゝいふところ

ねんしゆくす といふるを
 かゝりてわたり
 ききしんうらまは かくのこころ
 きくさへけなむ
 ふらんうきはにあそびするところ
 まいやはと見えぬともおもひとし
 めじきにー ゆめのみ
 からめん、 あたまこのこと
 まろのおやの おんなあらば

いと地又るくえ おちきつかに
いづくにたるときこそしるしとあらう
わづらひては中文字と一おのゝやと
しるしの中文字のれと
その中ろ んごつのと
あゝゝゝ 希有
この女人
そすまや そつのおふりや、
せむしを
せむしを

あり人の心もあきつらんわかれの中はうら
 へあると
 ついでにきこも人 しんしん 世屋の人 たしや 瑞正あふ
 びきあて
 このころめさう うきうねのやうなわしとま
 ありあうまう
 あねうのつてく 二葉のたぐいのつてくをき
 ぶらうんやうなうらうとあやと
 かりきうらう ちやうどわさうきやうなうら

けんとす ところのきさのき
 くらきうのき 死シ灰ハ橋ハシ木のき
 雪う 冬にうなる
 うもあられ ちる せさい
 きさうもあられ ちる せさい
 山う ちる せさい
 雪う ちる せさい
 あう ちる せさい
 ちる せさい

[illegible]

ともすきいめ　ともすきいめ
 せん　い　ともすきいめ
 おれ　い　い　い　い　い
 ともすきいめ　ともすきいめ
 ともすきいめ　ともすきいめ
 ともすきいめ　ともすきいめ
 ともすきいめ　ともすきいめ

[illegible]

ちあつち 母と子

ちあつち ちあつちのち

ちあつち 三月のち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

ちあつち ちあつちのち

出づる 出のまに
うらとて ころり
まうらん 日てん

あはれこころのまにころりあはれ
んとそらん

うらとてころり

こころのまにころり

うらとてころり

まうらんころりあはれ
あはれ

あはれ山 ころりあはれ
谷のまに ころりあはれ
ころりあはれ
ころりあはれ

まうらんころりあはれ
まうらんころりあはれ

まうらんころりあはれ

まうらんころりあはれ

まうらんころりあはれ
まうらんころりあはれ

けうだ ちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あつらんこのちんせい

あな乃ゆきん
あ子のちこ

ちんきん
かろの
かろ

あまのしほ

出
出

有
 三
 子
 之
 子
 也

宋明之

[illegible]

2
明
馬
び
る
下
に
こ
る
と
み
り

あなをく

とつふ
あまふのふ

かきこゝん
あまきん

いふるゆゑに、いふ字を

あ
あ

う
か
れ
と
は
る
は
と
う
て
は
る
じ

雲のふり
ひきま、
もたふ
くまふ
いふ
ふ

今やふ山をいふと大あつたふてふ

風をきく

五ノ三ノ二ノ一ノ

[illegible]

本に依り
此部は一部はものともいふ

ちやいん出やあやのやまらんち平よ
 ちのやあまらんち平にでいあやあ
 ちらんいああらんちらんちのあらんち

此一部永平十年文選訓罕沈融之詞短心不足更
非之令知見之能清之通教年半為士靈實學士云
或人雖七下之入乃此形加清之既一部之功參美
漏既之受解多入重而之加同色而已
平陽大永弟八仲春十九日

此書今部之年不令書寫一平至失火也
全書而下也、此惡切、嚴令罪惡之平
不馳走乎狼籍之極當以之有化見者也
天文甲午曆干祐依管統功

亞三台都督府立判

抄胸臆之愚談之條歸辛公之史書也先年
達能別刺史之聽字紙懸空之獲止分送
此而之、災却之金多之事原之、不仇之切
之、一見外是淫名乎而賢之、之、能狂化
見而已

天文甲午曆冬五日

八旬元初立判





